

感染症定期報告感染症別文献一覧表(医療機器 2018/4/1~2018/9/30)

ID	感染症(PT)	出典	概要
1	E型肝炎	ProMED-mail 20180417.5751275	2018年4月12日にフランスのバリで開催されたInternational Liver Congressで、ドイツの研究者による2つの研究が発表された。E型肝炎ウイルス感染が免疫不全者のみならず、免疫不全でないヒトにおいても致死的となり得ることが示唆された。また、免疫抑制者においては、血液製剤が重要な感染源であることも示唆された。
2	インフルエンザ	CDC FluView. 2017/10/06	2017年9月18日に米国メリーランド州におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルス感染のアウトブレイクが州の衛生局に初めて報告された。Maryland public health laboratoryにおいて、6例がインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスと確定され、3例は推定陽性であった。
3	インフルエンザ	CDC FluView. 2017/11/03	2017年~2018年インフルエンザシーズン第43週の間に、新型A型インフルエンザウイルス(IAV)に感染したヒト3例が米国の3つの州から報告された(コロラド州、ネブラスカ州、ミシガン州から各1例)。2例はインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルス感染、1例はインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルス感染であった。
4	インフルエンザ	CDC FluView. December 01. 2017	米国アイオワ州において、ブタに接触のあったヒトがインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルスによるインフルエンザを発症したという報告があった。
5	インフルエンザ	CDC FluView. September 09. 2017	米国ペンシルベニア州において、ブタと接触のあったヒトがインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスによるインフルエンザを発症したという報告があった。
6	インフルエンザ	CDC MMWR. 66(2017)1043-1051	2017年5月21日~9月23日の間に発生したアメリカでの変異型IAVのヒトへの感染について記載。新規症例としてデラウェア州でインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスのヒト感染1例が報告された。
7	インフルエンザ	CDC MMWR. 66(2017)1318-1326	2017年10月1日~11月25日の間に、5つの州から米国CDCに、新型IAVのヒト感染5例が報告された(コロラド州、アイオワ州、ミシガン州、ネブラスカ州、オハイオ州から各1例)。2例はインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルス、2例はインフルエンザA(H1N2)変異型(H1N2v)ウイルス、1例はインフルエンザA(H1N1)変異型(H1N1v)ウイルス感染であった。
8	インフルエンザ	CDC MMWR. 67(2018)169-179	2017年10月1日~2018年2月3日の間に、米国CDCに新型IAVのヒト感染6例が報告された。新型IAVの6例目のヒト感染は、2017年11月に呼吸器症状を発症したアイオワ州の成人患者で、インフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスによって引き起こされた。
9	インフルエンザ	Emerg infect Dis. 23(2017)152-154	ブラジル南東部に位置する農場において、新規のインフルエンザA(H1N2)型ウイルス遺伝子再集合体がヒトの感染例として確認された。
10	インフルエンザ	ProMED-mail 20171001.5354082	ブタとの接触に関連したインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルス感染に関して、米国メリーランド州の状況の追跡調査において、Maryland Department of Healthは推定陽性症例及び確定例を37例(入院2例を含む)としている。メリーランド州(37例)の他、デラウェア州(1例)、ノースダコタ州(1例)、オハイオ州(15例)、ペンシルベニア州(1例)、テキサス州(1例)で症例が確認された。
11	インフルエンザ	ProMED-mail. 20170930.5350726	2017年9月27日、Delaware Division of Public Healthは、メリーランド州Sussex郡の住民(女性、18歳未満)における同州で初めての変異型インフルエンザA(H3N2v)ウイルスの確定例について発表した。2017年9月24日の週に軽度のブタインフルエンザ症例の小児2例がFrederick Memorial Hospitalに来院したことを9月27日に広報担当者が確認した。同州では合計5例の住民がAnne Arundel County FairとGreat Frederick Fairでブタと密接に接触した後に検査でブタインフルエンザ陽性と判定された。5例全てがインフルエンザA(H3N2v)ウイルスと診断された。
12	インフルエンザ	WHOホームページ. http://www.who.int/influenza/vaccines/virus/201709_zoonotic_vaccinevirusupdate.pdf	米国ペンシルベニア州において、ブタと接触のあったヒトがインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスによるインフルエンザを発症したという報告があった。
13	鳥インフルエンザ	Virology. 511(2017)56-65	米国のブタにおける鳥インフルエンザA(H4N6)型ウイルスの伝播及び特性について調査した。ブタ-ブタ間の伝播様式は解明されなかった。
14	豚インフルエンザ	Emerg Infect Dis.23(2017)1551-1555	2016年、7つの農産物品評会におけるインフルエンザに感染したブタへの接触後、インフルエンザA(H3N2)型ウイルスのヒト感染が合計18例発現した。うち16例は、2010年から2011年の季節性ヒトインフルエンザA(H3N2)型ウイルス株由来の赤血球凝集素遺伝子を有するリアソータントウイルス感染によるものであり、米国のブタで罹患率が増加している。

ID	感染症(PT)	出典	概要
15	H1N1インフルエンザ	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/switzerland-reports-swine-influenza-ah1n1v-virus-case-farm-worker-94124/	スイスの48歳の男性農業労働者に、ブタインフルエンザA型(H1N1)ウイルスの陽性反応があったと世界保健機関(WHO)が報告した。
16	日本脳炎	PLoS One. 12(2017)e0175745	日本脳炎の濃厚流行地域であるインドのKushinagar地方において、ヒトと動物のエコシステム相互作用及び感染症の伝播に関わる促進要因について理解を深めるため、エコシステム・アプローチによる混合研究法デザインを採用した記述的横断研究を実施した。無作為にKushinagar地方の4つの村(うち2村は養豚あり、2村は養豚なし)を選択し、これらの村の小児、ブタ及びベクターからサンプルを採取し調査を行った。
17	コロナウイルス	AASV. https://www.aasv.org/news/story.php?id=10728	近年、コウモリ由来のコロナウイルスが、ブタで発見された。ホストジャンプにより、ヒトに重度の感染症を引き起こす可能性が示唆された。
18	重症熱性血小板減少症候群	Am J Trop Med Hyg. 96(2017)1346-1349	2013年、中国のShaanxi地区において重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)の初めてのヒト感染例が発見されたが、SFTSVの報告は2010年以降、中国の他の13地区でも散発していた。今回、我々はSFTSVについて、ヒト血清936サンプル、動物血清155サンプル、ダニ895匹、カ1950匹、小昆虫30匹、スナバエ20匹を含む、合計4011サンプルを用いた解析を実施した。SFTSV抗体は44ヒトサンプル(4.7%)で検出され、SFTSV特異抗体はヤギ(66.7%)、ウシ(13.2%)、イヌ(15.0%)で検出されたが、ブタでは検出されなかった(0%)。また、ダニの一種であるHaemaphysalis concinnaが21.3%の確率でSFTSVを保有していることがわかった。カ、小昆虫、スナバエのサンプルでは全てSFTSVは不検出(陰性)だった。
19	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIEホームページ. https://www.oie.int/wahis/2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?page_ref=MapFullEventReport&reportid=25293	スペインにおいて、ウシ1頭におけるH-BSEが確認された。迅速検査、ウエスタンブロット法、ELISA法及び免疫ブロット法を行い、2017年11月21日にH-BSEと確定された。当該検体はTSEサーベイランスプログラム(48カ月齢超の死亡または食用にと畜されなかったウシのサンプリング)より採取された。
20	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20171128.5468755	スペインにおいて、ウシ1頭におけるH-BSEが確認された。迅速検査、ウエスタンブロット法、ELISA法及び免疫ブロット法を行い、2017年11月21日にH-BSEと確定された。当該検体はTSEサーベイランスプログラム(48カ月齢超の死亡または食用にと畜されなかったウシのサンプリング)より採取された。
21	ブドウ球菌感染	Journal of Antimicrobial Chemotherapy. 73(2018)33-40	疫学研究で報告された患者の内、2例においてブタとの接触による MRSA 感染が示唆された。1例目については、2012年、57歳男性が豚肉解体時にナイフで左手親指を損傷し、同箇所からの MRSA 感染を呈した。当該患者は MRSA 感染に伴い骨髄炎を発症したが、その後状態は回復した。2例目については、50歳の男性養豚業者が、ブタとの接触により MRSA感染を発症し、滑液包炎を呈した。その後、状態は回復した。
22	ブタ連鎖球菌感染	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/hong-kong-reports-sporadic-streptococcus-suis-infection-35635/	香港保健センターは、6月5日に健康状態良好な47歳の女性に影響を与えるブタ連鎖球菌感染症の散発的な症例を記録した。
23	炭疽	ProMED-mail 20180215.5630697	パプアニューギニアの農業畜産省は、Madangで炭疽が発生していると伝えた。Post Courierの報道によると、過去2ヶ月間、同地域のブタ600頭の不自然な死が炭疽に関連している。
24	ウシ結核	PLoS Negl Trop Dis. 12(2018):e0006147	モザンビークで飼育されるウシから178株の <i>Mycobacterium bovis</i> (<i>M. bovis</i>) 分離株が得られた。スポリゴタイプ法及びregion of difference(大規模ゲノム欠失[RD])の解析を用いて分離株をクローン複合体ごとに分類し、MIRU-VNTRタイプ法のデータを用いて、アフリカ諸国の分離株と比較した結果、地理に根ざして構成された <i>M.bovis</i> の多様性が明らかになった。アフリカにおける <i>M.bovis</i> の多様性は、近年の輸入動物によるものではなく、それぞれ特定の地域内で保有動物から持続的に再感染することによって維持されたものと考えられた。
25	大腸菌感染	Zoonoses Public Health. 64(2017)468-475	志賀毒素産生性、ソルビトール発酵性大腸菌O157(SF O157)が重症ヒト疾患の原因として浮上した。2012年にフィンランドで発生したSF O157の流行について、低温殺菌処理をしない牛乳を販売していたレクリエーション農場から始まり、入院した小児6例及び無症状の成人2例で菌培養により感染が確認された。患者、ウシ、農場周辺のサンプルからSF O157と同一の株が同定され、疫学的解析の結果、低温処理していない牛乳が伝播媒体として示唆された。
26	ブルセラ症	CDC ホームページ. https://www.cdc.gov/media/releases/2017/p1121-contaminated-raw-milk.html	ニュージャージーの女性において特定された企業の生乳を摂取した後、ウシ流産菌ブルセラ症に感染していることが判明した。過去三カ月において2例目である。供給農場に関する情報が明らかでないため、過去半年以内に同社製の生乳を摂取した全ての人を対象に、医療機関での受診を促す警告が出された。

ID	感染症(PT)	出典	概要
27	ブルセラ症	ProMED-mail 20171122.5458277	ニュージャージーの女性において特定された企業の生乳を摂取した後、ウシ流産菌ブルセラ症に感染していることが判明した。過去三カ月において2例目である。供給農場に関する情報が明らかでないため、過去半年以内に同社製の生乳を摂取した全ての人を対象に、医療機関での受診を促す警告が出された。
28	旋毛虫症	Outbreak News Today. http://outbreaknewstoday.com/vietnam-trichinella-death-prompts-calls-eating-uncooked-pork-34572/	ベトナムの報道によると、熱帯病中央病院の関係者らは、繊毛虫による死亡例1例が発生したことを受け、加熱していないブタ肉を消費しないよう市民に助言している。
29	感染	Appl Environ Microbiol. 83(2017)doi: 10.1128/AEM.01346-17.	野生のブタがブタIAV及び鳥IAVの両方に感染する可能性が示唆された。野生のブタがIAVの宿主となり、ウイルス遺伝子の再集合が起きることで、鳥IAVがヒト等の新たな宿主に適応することを容易にしている可能性が示唆された。
30	感染	Arch Virol. 163(2018) 359-364	エジプトのブタにおいて鳥インフルエンザA(H9N2)型ウイルス及び鳥インフルエンザA(H5N1)型ウイルスへの感染、並びにパンデミックヒトインフルエンザA(H1N1)型ウイルスへの感染がウイルス学的に証明された。また、血清学的検査においても鳥インフルエンザA(H9N2)型ウイルス及び鳥インフルエンザA(H5N1)型ウイルス、パンデミックヒトインフルエンザA(H1N1)型ウイルス、並びにトリ由来及びヒト由来のブタインフルエンザウイルスへの既往感染が見られた。
31	感染	Transbound Emerg Dis. 20(2017) doi: 10.1111/tbed.12849.	ベトナム国内に輸入されたブタの数を統計学的に解析した結果、ヨーロッパのトリ由来のブタインフルエンザA(H1N2)ウイルスは国際貿易により宿主を介して侵入した可能性が示唆された。
32	感染	Vet Q. 37(2017)252-261	インド国内のブタにおいてヒト由来のロタウイルスC(RVC)が存在することが示唆され、さらに、12の遺伝子型を有するRVC分岐群がさらなる亜分岐群に分れることが示唆された。これまでにインド国内のブタにおいてRVCが報告された例はない。ヒト由来RVCのVP6遺伝子がブタにおいて検出されたことから、人畜共通感染症である可能性が示唆された。